

ラ フォレ セ ラ ヴィ ー森こそ命ー



# La Forêt, C'est la Vie !



育ちつつある苗木と村人たち。

## 森こそ命

「緑のサヘル」が活動しているバム湖周辺地域には、50 を越える村々が点在しています。バム湖はかつて鬱蒼とした森林に囲まれており、人々は湖に辿り着くまでに多くの動物と遭遇したといえます。

村々の皆さんにちょっと聞いていただだけでも、ハイエナやジャッカル、ガゼルや野ブタ、サルやウサギ等々、たちまち 20 種以上の名前が出て来ます。彼らの祖父の代には、ライオンやヒョウ、ゾウやキリンといった大型の野生動物もいたそうです。また、祖先の霊が森に住んでいると考える人々も少なくありません。地域の方々にとって、森は生活の場であると同時に、様々な命の源でもあったのです。

しかし、その森林も砂漠化の進行と共に多くが失われて行きました。そして 2000 年代初めには、僅かに疎林が残るのみとなり、木々を通して湖が見えるまでになってしまいました。もちろん動物たちも、そのほとんどが姿を消してしまいました。こうした状況に住民たちは危機感を覚え、先祖代々に対して後ろめたさを感じる人々も少なくなかったようです。「緑のサヘル」が村々の皆さんから活動を募った際、小学校や村落への植林に希望が集まったのには、こうした背景もあったのです。

2007 年以来、地域の方々と共に植えた苗木は約 163,000 本。不作で食料が不足した年でも、コロナ禍に見舞われた年でも、人々は木を植えることを止めようとしませんでした。そしてその結果、多くの土地に森や木立が出来、緑が蘇ることになりました。人々の植林に対する熱意は今も変わっていません。しかし現在、治安の悪化がその熱意を阻もうとしています。どうやら今年は、初めて木を植えない一年になってしまいそうです。

緑のサヘル 菅川 拓也

# ブルキナファソから



## ● 治安の状況 ●

現在、国土の4割以上が武装勢力の影響下にあり、国内避難民は200万人（国民の1割）を越えています。これに対してブルキナファソ政府は3月30日、武装勢力の完全掃討を掲げて全国45県中の22県に「非常事態宣言」を発令しました。また、これによって双方による戦闘の激化や民間への報復攻撃も考えられることから、日本政府外務省も地域ごとに危険レベルの見直しを行ない、邦人に対して注意を喚起しています。

今回のこの措置によって、「緑のサヘル」の活動現場であるバム県コングシ地域も、「非常事態宣言」の対象となり、最も危険度が高い「退避勧告」地域（これまでは「渡航中止勧告」地域）に含まれることになりました。現地NGOであるAJPEEによると、地元の青年層から募った「祖国防衛志願兵」の活躍によって地域は落ち着きつつあり、多くの住民は政府と軍の働きによって徐々に状況が好転すると信じているとのことでした。

## ● 活動について ●

「小学校緑化支援」ですが、2022年度に植林を行なった10校中、4校が完全休校となっています。治安回復後に授業が再開される可能性はありますが、現状では例年実施している「評価調査」と「成績発表会」の開催は難しく、出来る範囲で苗木の残存数を確認するに留めることにしました。また2023年度については、比較的安全が確保されているコングシ市内での実施を目指していましたが、残念ながら助成金をいただくには至らず、見合わせる事となりました。

「村落植林」についても、コングシ市内における「住民植林」としての継続を模索して来ましたが、活動の主体となるべき住民の移動や定着、居住が未だに落ち着いていないことから、当面の間は状況を見守ることとしました。皆様から植林や環境活動に限定していただいている「指定寄付」に関しては、植林経験校への苗木提供や用具補填、薪材を節約する改良カマド普及への利用を協力団体と検討中です。

## ● 避難民支援について ●

コングシ市内への住民移動は現在も続いており、既に24,000人を越えました。現地は雨季に入っており、暑さはやや和らいだものの、未だに35℃前後を推移しています。乾季に体力を消耗して雨季に倒れる人々も多く、避難民の健康状態が懸念されています。

前号以降、皆様から寄せられたご寄付の一部は既に現地に送られており、準備が出来次第、米2,000kg、トウモロコシ900kg、食用油200ℓが避難民に届けられる予定になっています。

（写真：現地では協力団体による食糧配布が続いています。）



# ありがとうございました

\*敬称は略させて頂きました。

## 【 会員のみなさま 】

川邊賢治／古川フミ子／今井奈津子／那口真理子／國岡裕子／向井成彦  
五味彩／岩永孝子／菊地滋夫／松本仁一／矢野正代／碓井道子／金井晶子  
林裕之／豊島正幸／永井邦子／瀬戸栄一／瀬戸義子／瀬戸謙二／瀬戸泰三  
瀬戸進一／新海真理子／石川祐一／株式会社ホーム創建

他 匿名をご希望の方 2名

## 【 ご寄付を頂きました 】

加藤文子／遠藤展子／竹越久高／松本恵子／國岡裕子／村上和代／後藤琢雄  
百々多岐子／赤山孝子／赤山美苗／神野潤子／谷村泰子／奥康功／高瀬光代  
岩本恵子／花垣末男／青柳美知子／田中浄子／瀬戸義子／佐藤京子／林裕之  
小笠原弘子／徳永由希子／青山健祐・初穂／小林佐代／菊地博子／高木瑞穂  
木嶋美加子／武藤彰子／大池良平／岩永孝子／戎綾子／矢部弥生／井上幸子  
佐貴眞木子／高木眞味子／葛西健一郎／玉岡昇治／高橋菜々子／榎本みつ枝  
矢野正代／熊谷雄一／碓井道子／及川豊／金井晶子／佐藤裕美／田中ちえ子  
加藤治郎／太田宜子／齊藤美子／太田みか子／太田弘子／松田曜子／田村典子  
山田陽明堂／大阪信愛学院小学校／岩手プロジェクト

他 匿名をご希望の方 5名

## 【 古本チャリティ募金を通じてご寄付をいただきました 】

戸澤眞知子

## 【 ハガキ・切手・商品券・図書カードなどをいただきました 】

竹橋なお美／井上幸子

他 匿名をご希望の方 1名

上記は 2023年2月1日から2023年4月30日までにご支援頂いた方、またそれ以前にご支援頂き、お名前を掲載できなかった方のご芳名であり、5月1日以降にご支援下さいました方については、次号の掲載とさせて頂きました。

## 【 協力団体・助成団体 】

アフリカの砂漠で木を植えている日本青年を支援する会／トヨタ自動車(株)  
(公財)毎日新聞東京社会事業団／(株)ブギ／国際ソロプチミスト大阪-中央  
(特活)環境アリーナ研究機構／LIFULL ソーシャルファンディング  
環境メディアフォーラム有限責任事業組合／アフリカ料理ドライブス  
ソフトバンクつながる募金／(特活)国際協力 NGO センター

## 【 写真を提供しました 】

(株)日本入試センター 小学生対象学習塾「サピックス小学部」塾内教材

## 国内活動



今期は、現地とのやり取りや情報の収集に多くの時間を費やしました。また、決算作業や報告書の作成等、事務所内の業務にも追われましたが、4月には明治学院大学において毎年恒例となっている講義をさせていただきました。

### 明治学院大学 講義

4月20日、当団体の菅川が明治学院大学において講義を行ないました。同校での講義は2015年以来、9年に亘って続けられていますが、2020年と2021年はコロナ禍のために配信講義となり、昨年から対面による講義が再開されました。



この講義は法学部3・4年生を対象とした選択科目「世界の環境を考える」の1コマで、今年は約80名の学生が出席して行なわれました。

印象的だったのは、ほとんどの出席者がとても熱心にメモをとりながら講義を聴いていることで、講義後に書かれた感想・意見からも真面目さや真剣さが伝わって来ました。近年増加している国際紛争や内戦、また顕著になっている自然災害の情報を日常的に接していることで、世界の現状をこれまでになく深刻に捉えているような気がしました。

#### ● ご寄付を募っています。



「緑のサヘル」は、多くの方々の支えによって活動を続けられています。もちろん、いくらからでもOKです。どうぞ、貯まった小銭や臨時収入のお裾分等々、「緑のサヘル」にお託し下さい！生徒会や有志による募金も、大切にさせていただきます。

#### ● 書き損じハガキや未使用切手を集めています。



国内の活動には、ハガキや切手も必要です。未使用の切手は、そのまま使わせていただきます。書き損じハガキは、1枚5円の手数料で同額のハガキか切手、レターパック等に換えることができます。その結果、現地の活動費を増やすことができます。

## La Forêt, C'est la Vie !

Vol.94

編集 緑のサヘル 東京事務局 / 印刷 社会福祉法人東京コロニー

発行所 (特活) 緑のサヘル ホームページ: <http://sahelgreen.org/> E-mail: [agsj\\_tokyo@sahelgreen.org](mailto:agsj_tokyo@sahelgreen.org)

〒101-0035 東京都千代田区神田紺屋町16番地 N A Sビル3F TEL:03-3252-1040 / FAX:03-3252-1041